

様式（細則 5-2）

平成 26 年 10 月 24 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 上野 茂



調査研究活動報告書

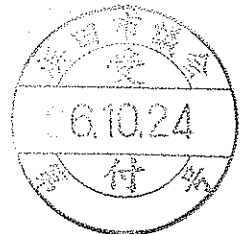
下記のとおり調査研究を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 26 年 8 月 18 日～8 月 20 日

2. 視察又は訪問先
 - (1) 長崎県大村市 おおむら夢ファーム シュシュの取組
内容 ① 自然・農業体験型観光と地域の担い手連携について
② 農家民泊
 - (2) 熊本県球磨郡山江村 時代（とき）の駅むらやくば
内容 ① グリーンツーリズムと地域連携について
 - (3) 熊本県人吉市 人吉市役所、農家レストラン「ひまわり亭」
(ひまわり亭と人吉・球磨グリーンツーリズムの取組について)
内容 ① 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」
② 農家民泊
 - (4) 福岡県太宰府市 九州国立博物館
内容 ① 文化財修復と和紙の役割について

3. 参加者 串崎利行、野藤薫、上野茂、飛野弘二、布施賢司、平石誠
渋谷幹雄、西田清久



4. 調査経費 30,786 円

5. 各視察先の研修内容

【農業生産法人 有限会社シュシュ】代表取締役 山口成美氏

〈1〉視察に至った経緯

浜田市は豊かな自然に恵まれ、様々な農産品や海産物が有ります。

この資源を有効に活用して、さらなる交流人口の増大と地域の活性化を願い、『地域農業の活性化と後継者の育成』を目指している おおむら夢ファーム シュシュの取組みを視察した。

〈2〉研修内容

① 施設見学[長崎県大村市弥勒寺町486

「おおむら夢ファーム シュシュ」

② 山口成美氏と意見交換

視察当日は、大雨洪水警報も発令される状況の中、レンタカーで浜田市を出発しました。

昼前におおむら夢ファーム シュシュに到着、園内のぶどう畑のレストランを見学、平日にもかかわらず多くのお客様で賑わっていました。

レストランはバイキング形式で大人 1300 円で食べ放題、地域の様々な食材を提供し創意工夫が見られた。

地産地消、農業の6次産業化を目指して、周囲には各種収穫体験施設や農林水産物直売所（新鮮組）、パン工房、洋菓子工房、シャーベット工房など、若者や家族連れを意識したオシャレな建物が連なっている。

山口氏は大村市農協で営農指導員をしていたが、平成2年農協を退職し専業

農家になった。高齢化による後継者不足、農地の荒廃への危機感から地区の有志 40 名と「福重地区農業農村活性化協議会」を設立、その中の 8 名の専業農家で、ビニールハウスの小さな農産物直売所「新鮮組」を始めた。

様々なアイデアで、常に前向き、モノを売るのではなく夢を売る、“年中夢求”と熱く語って頂いた。

〈3〉所感（まとめ）

最初の昼食場所ブドウ畑のレストランには、平日にもかかわらず多くのお客様で賑わっていました。

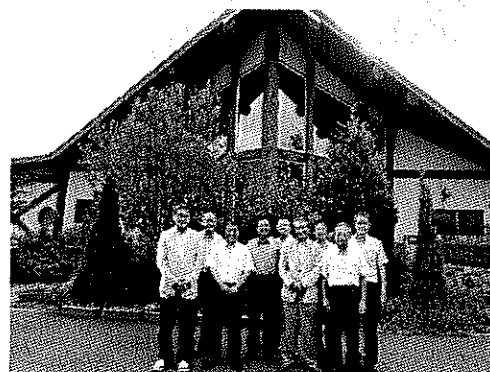
バイキング形式で 50 数種類、大人 1300 円で食べ放題、地域の様々な食材を提供し創意工夫が見られた。よくみると浜田の地元にある食材ばかり、なのに全部食べてみたくなる・・・もっと居たくなる・・・

商品のネーミングなどもひとひねりされており、商品のレッテルにもユニークな絵、ニンジン 1 本でも良い商品は市場に、形の悪いものはジュースに加工し販売など、生産者の利益を考え生産意欲を維持する、人との出会いを大切に、大村市のグリーンツーリズムの民泊体験も連携、応援されている。

おおむら夢ファーム シュシュの取組は、高齢化による後継者不足、農地の荒廃への危機感から来たもの、浜田市においても大いに参考になると思いました。



ぶどう畑のレストラン



おおむら夢ファームシュシュ

【球磨郡山江村】山江村 内山慶治村長

山江村議会 松本佳久議長

〈1〉視察に至った経緯

九州の人吉・球磨地方はグリーンツーリズムが盛んであると聞き、海山自然豊かな石見地域・浜田市の参考になればと最初に山江村の取組を視察しました。

〈2〉研修内容

① グリーンツーリズムと地域連携について（時代（とき）の駅むらやくば）にて

山江村は現在、人吉・球磨グリーンツーリズム協議会に参加しているが、地域活性化に平成4年ボンネットバスを復活させ、各地からボンネットバスの大会を開催し地域活性化を図った。その後、グリーンツーリズムで特産品の栗を収穫する農業体験や、栗の加工品作りなど交流人口の増大を図った。

平成15年第1回グリーンツーリズムネットワーク全国大会（熊本）参加をきっかけに、地域からの様々な体験メニューが提案された。

また本場イギリスのグリーンツーリズムを研修する為、村から3名派遣した。

農業体験、収穫、加工の中で地域の食への関心も高まり「食を通じた交流」も始まった。

旧役場を「時代（とき）の駅むらやくば」レストランとして改装オープンした。

〈3〉所感（まとめ）

旧役場を「時代（とき）の駅むらやくば」レストランとし、村長が先頭に立って地域住民を巻き込んで村おこしに力を入れておられる。

各地の大学ゼミのグリーンツーリズム体験研修も受入れているようで、当日も関東の女子大生2名が意見交換に参加、山江村は第二の故郷だと話していました。そうした活動で山江村ファンを増やしておられた。浜田市にも多くの遊休施設がありその活用に参考になった。

そこに住む人と心のふれあい、地域の『うまい食』が有れば、真のファン作りに繋がると思いました。



村長、議長、大学生他



時代の駅むらやくば（レストラン）

【熊本県人吉市】人吉・球磨グリーンツーリズム協議会（人吉市役所）

農家レストランひまわり亭（本田節氏）と農家民泊

〈1〉視察に至った経緯

九州での先駆的な取組と言われる人吉・球磨グリーンツーリズム協議会は10市町村による協議会である。この取組や、中心的な存在の本田節さんのお話を聞く事と、農家民泊によりグリーンツーリズムの目的、「豊かな自然、歴史、文化などの多面的な資源を活用しながら、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」を視察研修した。

〈2〉研修内容

① 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」

農家レストラン『ひまわり亭』代表 本田 節 氏

② 農家民泊

最初に人吉市役所において人吉・球磨グリーンツーリズム協議会事務局の山本次長より、人吉市の説明と協議会の今日までの経緯と概要説明を受けた。

この協議会の設立経緯は、平成15年より人吉市を含む10市町村が構造改革特区「森林の郷 農林業げんき特区」としての認定を受けた事を契機に、都市農村交流事業への取組がなされた。

平成17年度にはこの取り組みに参加した農家の方を中心に「人吉市グリーンツーリズム推進協議会」が設立、農家民泊が始まった。当初「田舎に泊まろう農業体験」として小学生の受入れをスタート、川遊びや虫とりなどで都会の子供達が感動する姿を見て、豊かな自然を再確認する事になった。

この農家民泊の為の研修の過程で、それぞれの地域と特色有る料理を持ち寄り、食の交流会（研修）を、ひまわり亭で開催する事になった。

市役所にて説明の後、ひまわり亭に移動し本田節氏より話を聞いた。

「ひまわり亭」は地産地消、食の交流拠点として立ち上げた。食、農を地域資源とした拠点、郷土の家庭料理をテーマにしている。

地域の高齢者の知恵が家庭料理に詰まっている。これがお金に、おこずかいになる。すると地域の中で自立出来る。ボランティアでは続かない。

怒涛のような、本田節氏の想いを聞く一方で有ったが、地域の魅力やそこに住む人の魅力がストレートに響いた研修で有りました。

その後、農家民泊のお母さん方がお迎えに・・・二つのグループに分れそれぞれの農家に向かい、夜が更けて行きました。

〈3〉所感（まとめ）

グリーンツーリズムの先進地、食を大切にした農家レストラン「ひまわり亭」には年間5万人が訪れる。

地域の高齢化、農業の衰退に危機感を持ち、グリーンツーリズムに地域の活性化を託しているように見えた。

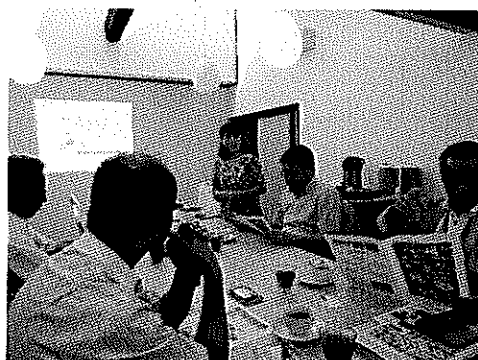
何にもないと思っていた田舎に、人が来る。当り前の食べ物に感激し、人の温かさに感動する。それが幾らかのお金になり、生き甲斐になる。農家民宿では自宅で栽培された無農薬米や野菜を使った料理でた、繰り返し来る人もあり、豊かな自然と家主の笑顔を見て納得した。

先日、金城町の森の公民館に講演に来られた代表の本田節さん、何度も浜田

にも来られている。地域を何とかしようとの思いがすごい・・・若い跡継ぎを作りま
さにウーマンパワーそのものだと思う。



人吉市役所にて



ひまわり亭にて、本田節氏

【福岡県 太宰府市】九州国立博物館 学芸員

国宝修理装演師連盟 坂田理事長

〈1〉視察に至った経緯

ユネスコ文化遺産である浜田市三隅町の石州半紙は、国宝などの文化財の
修復には欠かせない。

この度、会派視察の帰途に九州国立博物館に立ち寄り、修復の現場で視察
研修を行った。

〈2〉研修内容

① 「文化財修復と和紙の役割について」

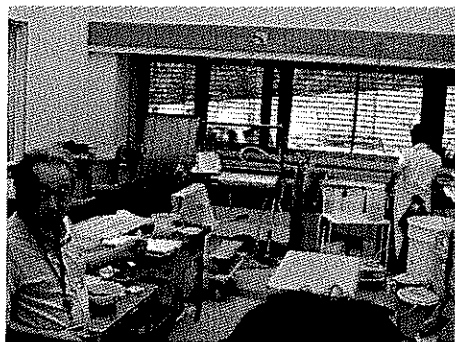
国宝修理装演師連盟 坂田理事長が、当日九州博物館の滞在されており、
お話を聞く事が出来た。

修復現場は、気温や湿度の管理と、災害から文化財を守る為の、設計に
なっていて、普段は見る事の出来ないものでした。

また大学で文化財の修復を専攻している学生も、実習に来ていて、修復
の各段階の説明を聞く事が出来ました。

〈3〉所感（まとめ）

石州半紙が神楽面だけでなく、大切な文化財修復に使われていること、その評価の大きさに感心致しました。ほかにも用途があるか勉強したいし地域の宝、石州半紙の技術伝承に努めて行かなければと感じました。



坂田理事長と修復の現場



国宝修理装演師連盟の職員